

経済倶楽部便り

◆東京◆ 本年12月に経済金融懇話会の月一回の例会が100回目を迎えます。前理事長による雑誌企画感覚のテーマ選びが長寿の秘訣と自画自賛をしています。講演会の4000回にはとても及びませんが、このほかの分科会にも長寿を続出させたいものです。

11月の講演会には、齊藤誠氏(一橋大学大学院教授) 石橋湛山賞受賞記念)、高原明生氏(東京大学大学院教授)、増田寛也氏(前岩手県知事)、小坂文乃氏(日比谷松本楼副社長)、福島清彦氏(立教大学特任教授)をお招きしました。

新会員を紹介します(順不同)。阿部勝次・日本生命顧問、北岡一男・三浦印刷顧問、永井博之氏、橋本幹雄氏、堀田充・協同セミナー取締役会長、松井和明・ユビテック常勤監査役、吉積友子氏。(塚田 紀史)

◆中部◆ 「いまだに東海銀行を懐かしむ人は多いですよ」と言うのは地銀シンクタンクの幹部。「小学生の頃はクラスのほぼ全員が東海銀行の貯金箱を持っていました」とも。東海銀行の営業力の強さを示すエピソードですが、その東海銀行が吸収合併を経て三菱東京UFJ銀行になって10年。合併によって看板が掛け替えられたのは当然ですが、店舗の統廃合も進みました。一方で、ここ数年、名古屋市内で積極的な営業展開が目立つのは十六銀行、大垣共立銀行といった岐阜の有力地銀です。かつての地元密着型のガリバーを懐かしむ声の背景は、単なる感傷だけではないという点を岐阜系の地銀は見抜いてもいるようです。

11月の定例講演会の講師は、東海地区の経済・金融情勢で櫛田誠希・日本銀行名古屋支店長、政局動向で政治評論家の森田実氏です。また、秋の施設見学会は原発廃止論議が続くなか、焦点の中部電力浜岡原子力発電所を予定しています。(日暮良一)